







様々な層せん断力を用いてNR解析を行い、αN×αRの結果の中から上位項目を抽出した。

αN及びαRの結果に関しては、微妙な差異があるもののどれも全体の形状としては殆ど同じだった。R解析の結果では最上階近くでは差が比較的大きいものの、層せん断力の違いによってどの階の値が大きくなりやすいかということはあまり変化しないことがわかった。

αNとαRの積に関しては、それぞれの値の微妙な誤差の影響で上位項目の階が変化している。

EW方向ではD48（上位6項目）に違いが見られ、小数点以下3桁目の値の違いによって20階と5階の配置が変化している。

NS方向ではD100（上位13項目）で28階、9階の結果が違い、D80（上位10項目）では28階と14階の結果が違った。しかしそれ以降の上位項目には変化が無かった。